

# 事業再評価

---

## 社会資本整備総合交付金事業 主要地方道成東酒々井線 八街バイパス

令和2年2月7日

千葉県 県土整備部 道路整備課

---

---

# 目次

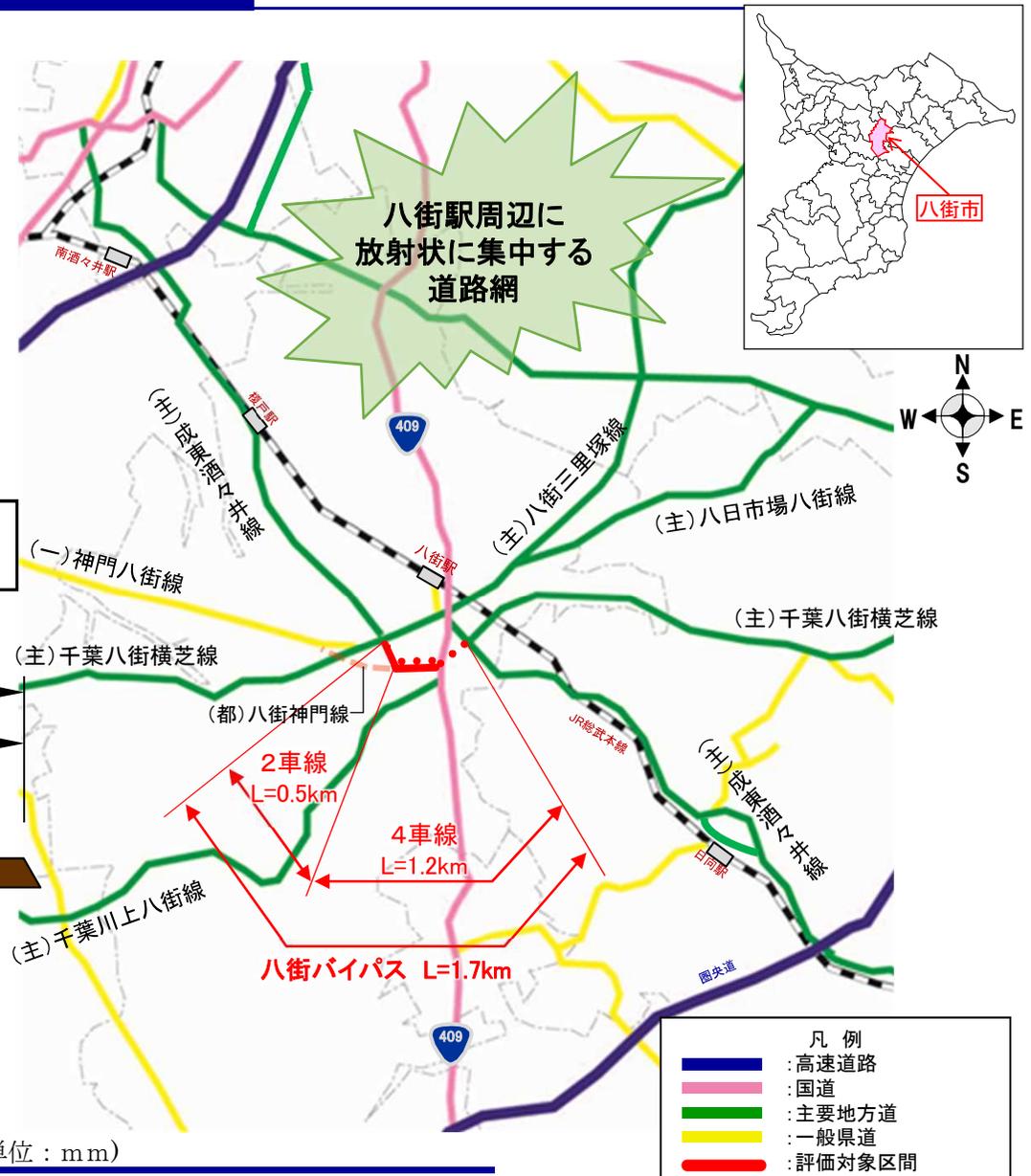
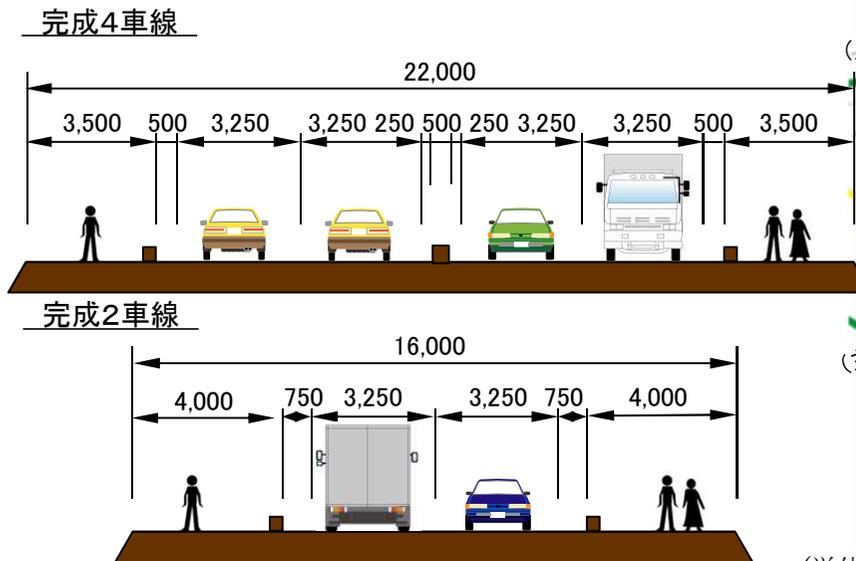
---

1. 事業の概要
2. 事業の進捗状況
3. 社会経済情勢等の変化
4. 事業の投資効果
5. コスト縮減
6. 対応方針(案)

# 1. 事業の概要

起点：八街市大木  
 終点：八街市八街ほ  
 延長：L=1.7km  
 幅員：W=16.0m~22.0m  
 道路規格：第3種第2級  
 設計速度：60km/h  
 全体事業費：44億円

計画横断図

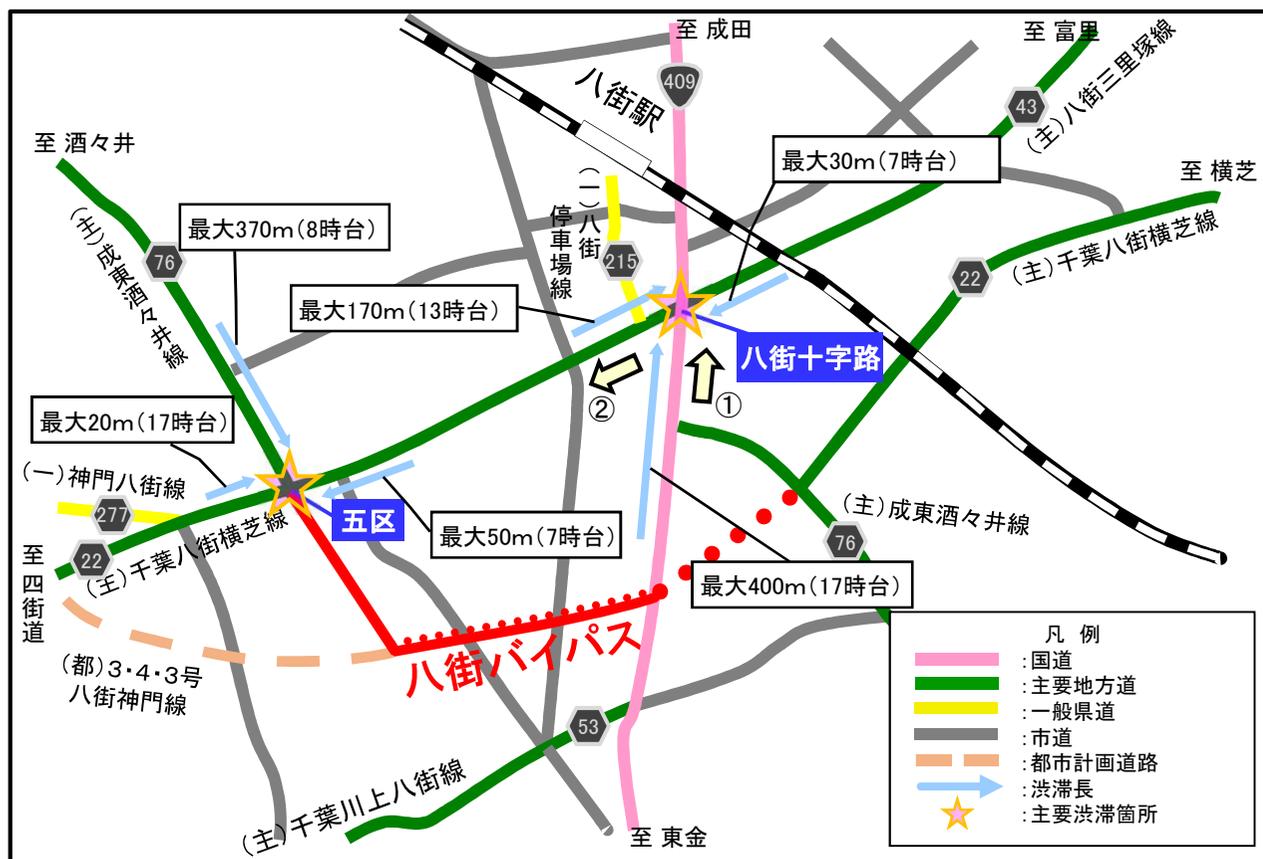




# 3. 社会経済情勢等の変化

## (1) 渋滞状況

八街駅周辺では、主要渋滞箇所で見交差点を中心に渋滞が発生している。  
 五区交差点:8時台に最大370m、八街十字路:17時台に最大400m

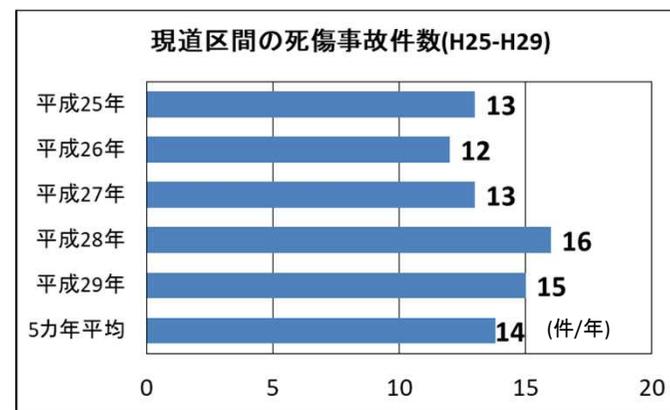
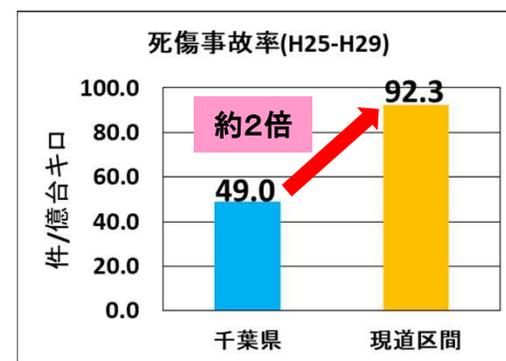


出典) 渋滞長: 千葉県交通状況調査結果 平成29年6月22日(火)  
 主要渋滞箇所 (国土交通省関東地方整備局資料を加工)

### 3. 社会経済情勢等の変化

#### (2) 交通事故

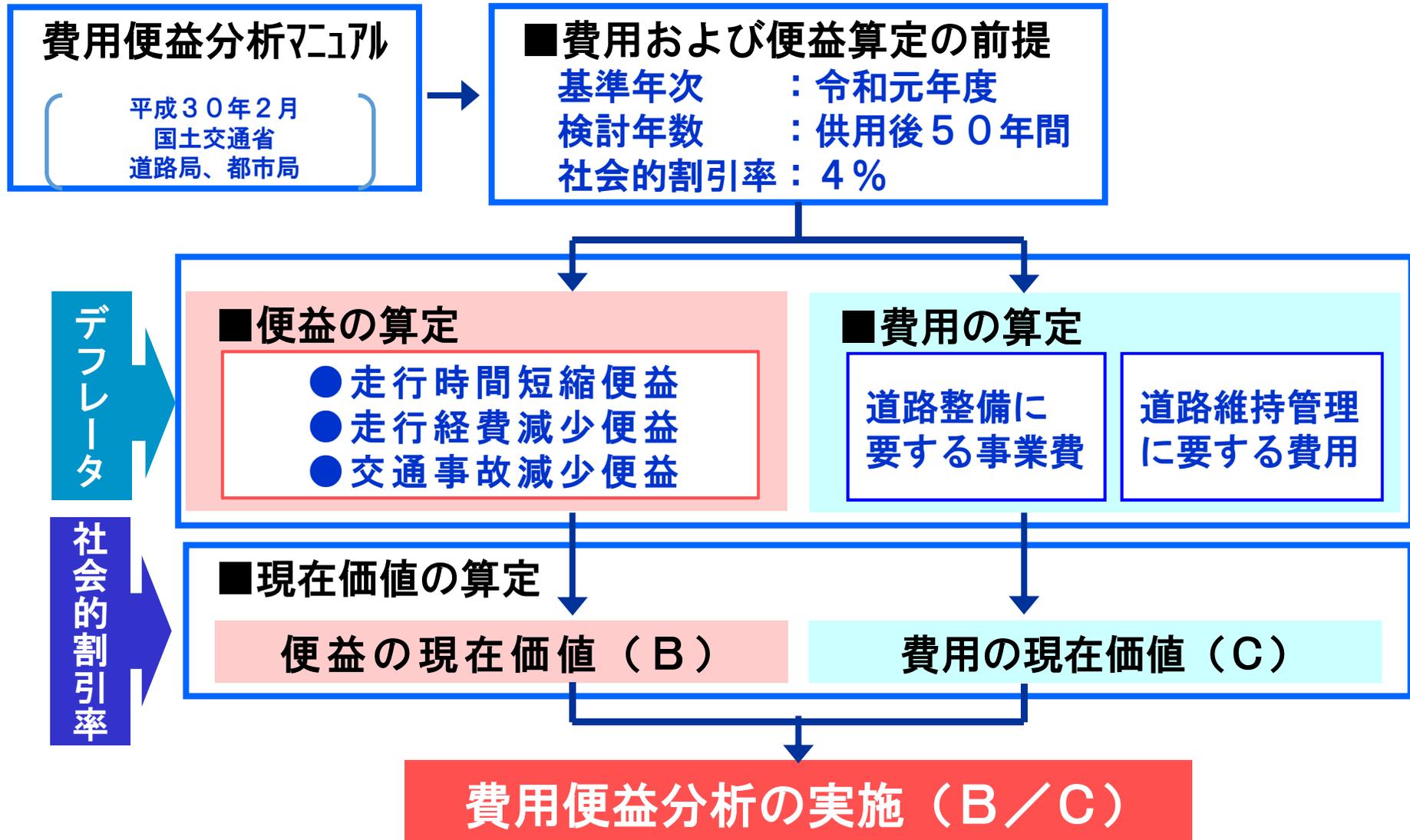
バイパスの現道区間では、平成25～29年の5ヶ年において死傷事故が年平均14件発生している。現道区間の死傷事故率は92.3件/億台キロであり、千葉県全体と比較すると約2倍となっている。また、現道区間は通学路に指定されているが、歩道のない箇所があり交通安全上の課題となっている。



出典) 公益財団法人 交通事故総合分析センター

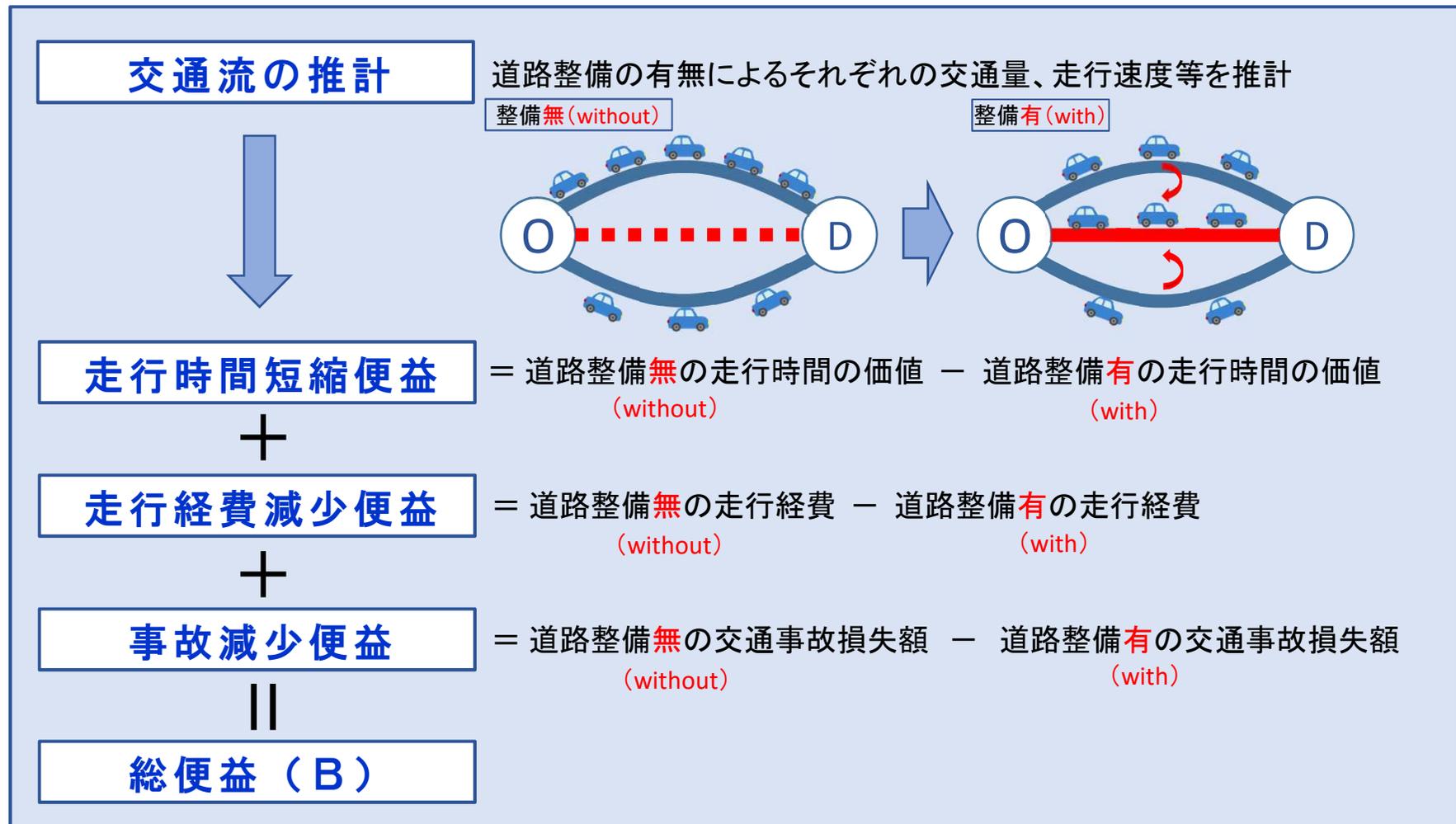
# 4. 事業の投資効果

## (1) 費用便益比の算定



# 4. 事業の投資効果

## (2) 便益の算定方法



## 4. 事業の投資効果

### (3) 走行時間短縮、渋滞緩和

バイパス整備により、五区交差点から八街に地先交差点までの走行時間は約5分短縮し、交通の円滑化が図られる。また、新たなルートが整備されることで交通が転換され、現道区間では交通量が最大45%減少し、渋滞緩和が期待される。

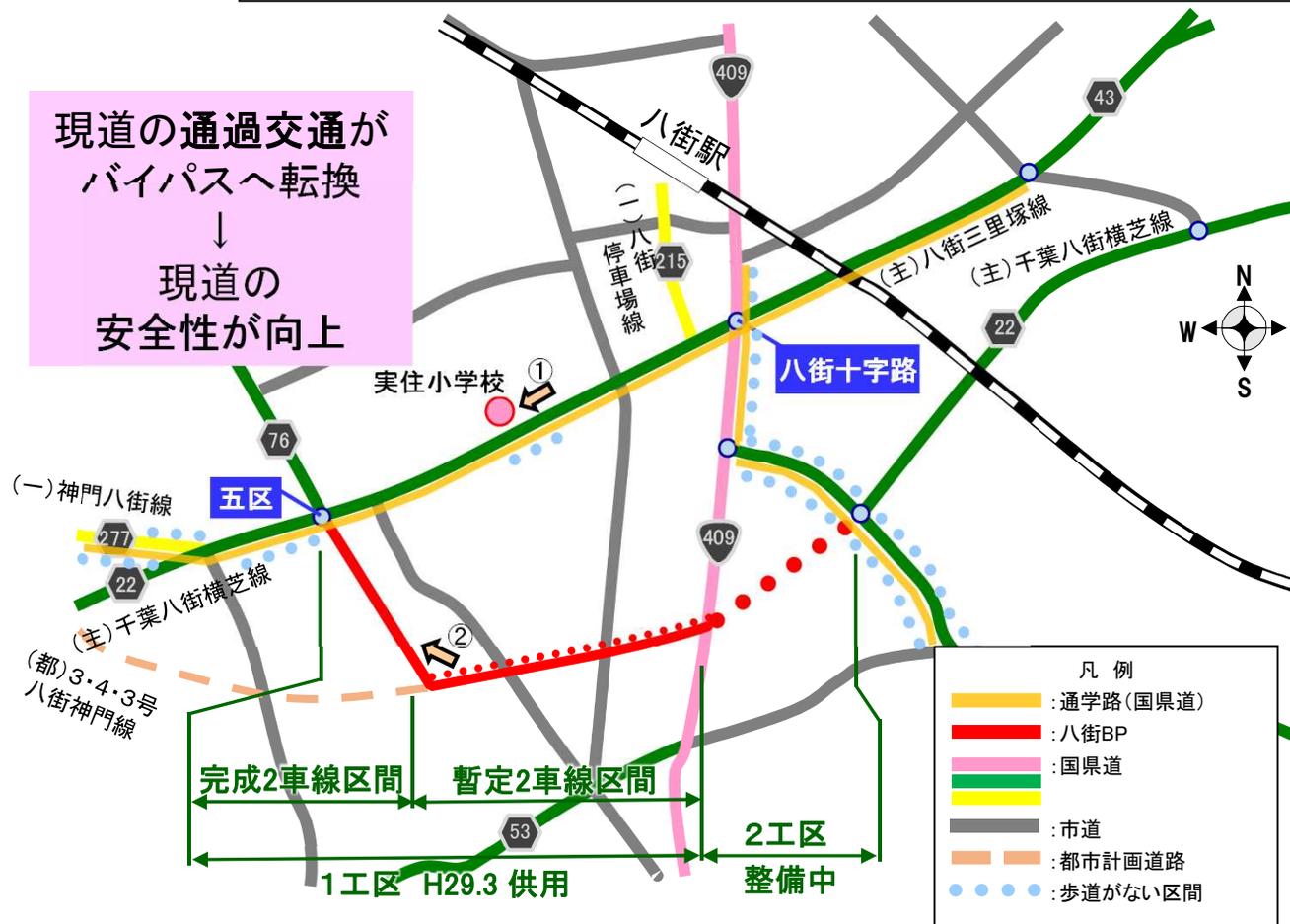


資料：H27道路交通センサス混雑時旅行速度(上下平均値)より算出  
ただし、評価対象区間は設計速度60km/hを適用

# 4. 事業の投資効果

## (4) 安全性の向上

現道の通過交通がバイパスに転換することにより、交通量が減少し、  
現在よりも現道の安全性向上が期待されます。



現道の通過交通が  
バイパスへ転換  
↓  
現道の  
安全性が向上



撮影日: 2014.11.27



撮影日: 2019.12.18

## 4. 事業の投資効果

### (5) 費用便益比

#### 【事業全体】

便益 (B)	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	総便益	費用便益比 (B/C)
	77億円	8億円	2億円	87億円	
費用 (C)	事業費		維持管理費	総費用	1.2
	70億円		2億円	72億円	

#### 【残事業】

便益 (B)	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	総便益	費用便益比 (B/C)
	57億円	6億円	2億円	65億円	
費用 (C)	事業費		維持管理費	総費用	16.5
	3億円		1億円	4億円	

基準年：令和元年度

注1) 便益・費用については、基準年における現在価値化後の値である。

注2) 費用及び便益額は整数止めとする。

注3) 費用及び便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

## 4.事業の投資効果

### (6)費用便益比の算定結果

#### B/Cの比較

	今回評価(R1)	前回評価(H26)	備考
費用便益マニュアル	平成30年2月版	平成20年11月版	
対象延長	1.7km	1.7km	
基準年次	令和元年度	平成26年度	
供用予定年次	令和6年度	令和6年度	
分析対象期間	供用後50年	供用後50年	
基礎データ	平成22年度 道路交通センサス	平成17年度 道路交通センサス	最新の将来OD表、走行台キロの伸び率に更新
計画交通量	9,500~17,700台/日	9,700~13,100台/日	
総便益(B)	87億円	69億円	暫定供用に伴う便益発生
総費用(C)	72億円	56億円	基準年次の変更に伴う増加
B/C	1.2	1.2	

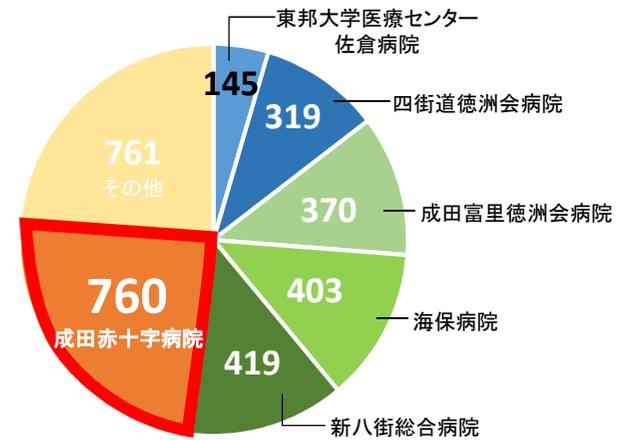
#### 事業費の比較

	今回評価(R1)	前回評価(H26)	備考
事業費	44.0	44.0	

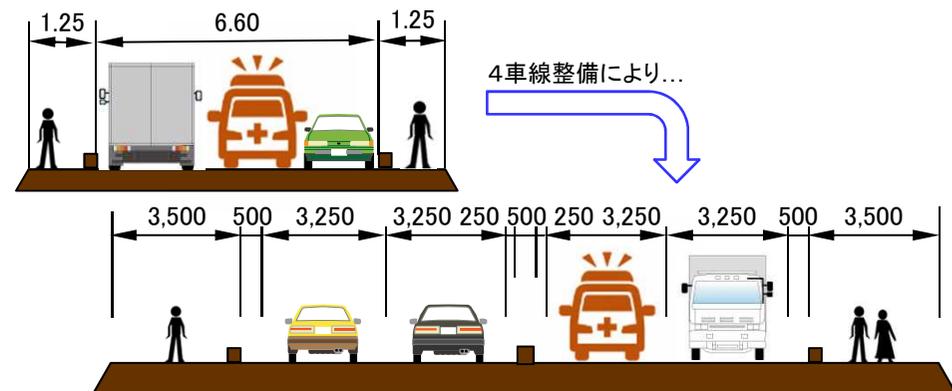
# 4. 事業の投資効果

## (7) 緊急車両の搬送時間短縮(便益に含まれていない効果)

4車線のバイパスが整備されることにより、  
混雑した市街地の搬送を避けて緊急搬送ができることとなるため、  
この地域で最も搬送実績の多い「成田赤十字病院」までの搬送時間短縮が期待される。



平成30年八街市内医療機関別搬送人員  
出典: 佐倉市八街市酒々井町消防組合





## 5. コスト縮減

---

### コスト縮減への取り組み

建設発生土の有効活用や新技術・新工法の積極的な活用を図り、コスト縮減に努めながら、引き続き事業を推進していく。

## 6. 対応方針(案)

---

○費用便益比(B/C)⇒『1.2』

○整備効果

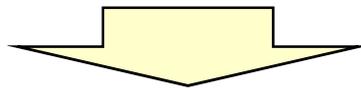
- ・交通の転換による渋滞緩和及び移動時間短縮
- ・現道の交通量減少に伴う安全性の向上

【便益に含まれていない効果】

- ・緊急車両における、医療機関への搬送時間の短縮が図られる
- ・緊急輸送道路ネットワークの強化が図られる

○事業の進捗

- ・用地買収が概ね完了しており、令和5年度までに完了が見込まれる



**事業を継続し、効果の早期発現を目指す**